



# TKI



## 国際交流通信 第7号

奈良県立登美ヶ丘高校  
国際教育部 編集  
2019年12月発行

### 本当に残念、中村哲さん逝く

2019年12月4日、アフガニスタンで水路の建設や医療活動など、人道支援に取り組んできた中村哲医師が銃弾に倒れました。英語の教科書の題材にもなった中村さんは、これまでアフガニスタンで医師として務める他、井戸や水路をつくる活動に貢献されてきました。「100の診療所より1本の水路を」と訴えた彼の活動について、ここで足跡をたどってみます。

中村さんが所属する福岡市のNGO「ペシャワール会」の活動報告によると、1984年にハンセン病治療のためパキスタンで医療活動を始め、1991年には、アフガニスタンで初めて診療所を開きました。しかし、2001年から始まったアメリカによるアフガニスタンでの軍事作戦などの影響で、現地での医療活動は大幅な縮小を余儀なくされ、さらにこの頃、アフガニスタンでは干ばつが悪化し、水不足による栄養失調や感染症が急増しました。このため中村さんは、医療活動と並行して井戸を掘る活動を始め、2006年までに飲料用の井戸およそ1600本と、かんがい用の井戸13本を掘りました。また、干ばつで被害を受けた農村の復興を目指して、2003年から水路の建設も始めました。

中村さんは「アフガニスタンでは温暖化の影響で農地が乾燥し、年々失われ、食料が少なくなり、深刻な事態になっている。私は医療関係者だが、薬だけでは人々の健康は守れない。清潔な水、それから十分な食べ物を確保するために、かんがい事業が欠かせない」と活動の意義を強調していました。今年の11月19日、北九州市内であった講演会が最後となりましたが、そこで強調されていたのは、現地を尊重する支援のあり方でした。英語で説明を始めましたが、話が熱を帯びると現地のパシュトゥー語を流暢に操り、2時間ほど語られたそうです。「私たちが貰ってきたのは、なるべく地元の素材を利用し、地元のやり方で、そこの人々の手を借りて、ローカルの力を活用すること」。彼の意志が引き継がれ、今後もますますアフガニスタンが発展していくことを私たちは願ってやみません。



(朝日新聞デジタル他より編集)

### 「トビタテ留学JAPAN！」参加生徒から – 韓国語学留学に参加して –

2年6組の仲さんは、この夏、「トビタテ留学JAPAN！」という留学プログラムで短期の韓国留学に参加しました。ちょうど日韓の関係が悪化してきた折だったので、彼女が感じた韓国は日本で報じられている様子とは違ったようです。以下に彼女の手記を紹介します。

私はこの夏、韓国の慶熙大学に言語や文化を学びに行く機会がありました。韓国滞在中、慶熙大学で語学学習の他、ダンスやテコンドー、民族衣装の試着、休日には韓国で有名な観光地に訪れたりしました。私はその中で、とてもショックなことがありました。

それは、観光地の東大門に行ったとき、日本に対するヘイトスピーチをしていたことでした。私は日韓関係が悪化していることはニュースやSNSで見たり聞いたりして知っていましたが、本当に韓国でヘイトスピーチが行われているとは思っていませんでした。また有名な観光地で多くの日本人が来るところだったので、とても驚きました。私はヘイトスピーチを聞いたとき、とても悲しい気持ちになりました。なぜなら韓国にいる間に私が関わった人はみんなとても親切で、日本についてもっと聞きたいと言っていたからです。またお昼ご飯を食べに行っただけでは、どんな料理かわからず、なかなか注文できなかった私に1つひとつどんなものであるか店員さんが丁寧に教えてくれました。私は実際、日本のことを嫌っている人はほとんどいないかもしれないかと思っていたので、ヘイトスピーチをしている人に出会ったときは、自分の気持ちの落差も大きかったです。

でも忘れてはいけないことは、韓国の人がみんな日本のことを悪く思っているのではないということです。中には反日の人がいると思いますが、日韓関係が悪いから韓国の人がみんな日本のことが嫌いというわけではないことが分かりました。

最後に、私はこの経験を通してニュースなどで取り上げられていることはほんの一部であることを学びました。「韓国と日本の関係が悪くなった」とニュースで伝えますが、国民がそのことについてどう思っているのかまでは伝えません。だからニュースで仲が悪くなったと伝えれば、その国との関係も悪くなったかと思ってしまうのだと思いました。韓国について好きになってほしいとは言いませんが、ニュースの内容だけを見て嫌いになってほしくないと思います。私はこの留学で多くのことを学ばせていただきました。それらを今後の生活で生かしていけたらと思います。ありがとうございました。



### クリスマスって本当は何の日？

もうすぐクリスマス、みなさんは12月25日のクリスマスが、キリストの誕生日だと思いませんか。実はキリストの本当の誕生日は不明なんです。西暦1年は、キリストが生まれた年です。でも、誕生日はいつかわかっていないのです。では何の日かという「キリストの誕生を記念する日」なんです。また、「クリスマス」の意味は知っていましたか。クリスマスは英語で"Christmas"、Christ（キリスト）とMass（ミサ）が一緒になって、「クライスト+マス=クリスマス」となりました。ミサは正式にはカトリック教会で礼拝で、神父が信者にパンを与えることで、パンはキリストの身体とされます。でも日本では、教会の礼拝という意味で使うことが多いですね。クリスマス・ミサをのぞいたら信者の方がパンをもらうところを見ることができません。そしてクリスマス・イブはクリスマスの前の日、というイメージですね。でも実は「クリスマスの晩」という意味なんです。英語ならChristmas Evening。イブニングを短く言うとイブとなりますね。クリスマスは日没から始まるので、正確には24日はもうクリスマスなんです。

クリスマスは、もともと太陽崇拝のミトラ教の冬至が終わるお祝い。そこに、キリスト教の救世主イエスの降誕を祝う意味が加わったものですが、それではどうして「12月25日」なのでしょう、そして「ミトラ」とは何のことか、興味が沸きませんでしたか、是非次回、調べてみてください。来年もみなさんにとって良い年でありますように！

(国際教育部)

